

ニッポン

ドクター和の



臨終回巻

「あつけない。こんな別れがあるのか」…連れ添って40年の妻に突然死なれたときの夫の言葉です。

プロ野球ヤクルト、楽天などで監督を務めた野村克也氏の妻であり、タレントとしても活躍された野村沙知代さんが12月8日に急逝されました。85歳でした。

た。

35 野村沙知代



異変があったのは、8日のお昼ごろ。先にベッドから起きたのは克也さん。まだ隣のベッドで横になっていた沙知代さんは、克也さんにこんなふうに声をかけました。

「左手を出して。手を握つ

にホテルで食事を楽しんだしっかり者の奥さんが突然、目前で意識を失つて倒れたわけですか。どうだったでしょうか。

それにしても、克也さんの憔悴ぶりが気になります。突然妻に先立たれると急に弱つてしまうのが夫という生き物です。そのあたりのことを私は拙著『男の孤独死』(アツクマン社)詳しく書いたばかりです。孤独に負けず、元気でいらっしゃることを祈ります。それが奥さまへの最大の供養になると思います。

その後、2人とも起きて、ダインニングに行き、いつものようにプランチを取ったそうです。が、沙知代さんは食欲がなきそで、一口だけ食べたあとに、そのままテーブルで意識を失つたといいます。

「最期は本当にしゃべれなかつた。『どうしたんだ?』と(こちらが聞いた)だけ…

克也さんは記者会見で言葉を詰まらせました。昨日まで一緒に過ごせました。昨日まで一緒に過ごせました。もしも、一人でいるときであれば異状死や孤独死として警察沙汰になっていた可能性も高いのです。

「手を握つて」と沙知代さんが訴えたとき、きっと本人の中では何かしらの別れの予感があったのだと思います。

私の在宅での年間お看取り数は12月で100人を大きく超えました。最期に何かメッセージを残して逝く人は決して珍しくありません。それを受け止め、手を握つてあげた克也さんは、最後の瞬間、伴侣と一緒にあけられたことが何よりも良かった。もしも、一人でいるときであれば異状死や孤独死として警察沙汰になっていた可能性も高いのです。

死因は虚血性心不全。先日、この連載で書きましたが、ちょうど1年前に亡くなられた芸能リポーターの武藤まさ子さん(享年71)と同じ死因で、同じ突然死でした。心臓突然死は突然死の中で最も多い疾患であるといわれています。

「手を握つて」に別れの予感

沙知代さんは「こんな